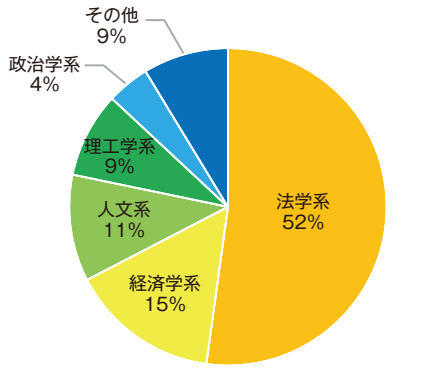
若手職員に聞きました！

入局１年目から３年目までの若手職員にアンケートを実施しました。
入局して実感した本音を含めたフレッシュな声をお届けします！

Q1.衆議院事務局を志望した理由と最終的な入局の決め手はなんですか？

・活躍の幅の広さです。様々な分野を扱う委員部や調査局があり、国際部では世界をまたぐ仕事もできることに魅力を感じました。
・勤務地が変わらないという安定性があり、そのうえ歴史の１ページに携わるかもしれないという予測不可能で、面白い人生が送れそうなことです。
・若いうちに政治の中枢を知ることと、色んな人と出会うことに価値があると思い、入局を決めました。
・我が国を代表する国会議事堂の整備に携わることができるためです。（技術系）

修了した学問系統（大卒程度）





令和８年度初任研修の憲政記念館見学に於いて

Q２.衆議院事務局でしか味わえない仕事の醍醐味はなんですか？

・自分の仕事が国政の歴史の一部となり未来に受け継がれることです。
・国の課題を解決して、日本をより良くしようとする政治家を一番近くで見られることです。
・政治のダイナミックな動きを身近で感じられる点です。
・自分が作成した資料が委員会で活用されるなど、業務の成果が国会審議に直接結びつくことがあります。
・戦前や戦後直後の文書など、歴史的な資料に触れながら仕事ができることです。

Q３.学生時代の経験で業務に生きたものはありますか？

・接客業のアルバイトで培った、相手の意図を的確に把握し状況に応じて対応する力が、議員秘書や政府関係者の方々とのコミュニケーションの場面で生かされています。
・卒業論文の執筆で学んだ論理的な文章の書き方や他の人の論文の発表を聞いて質問する経験が、文書の作成や、疑問点を明確にして考えを整理することに生きています。
・部活動での大会の運営が、本会議に向けた様々な場面に備えての事前準備に役に立っていると思います。
・塾講師のアルバイトで教える立場を経験したからこそ、「教わる」というのは恥ずかしいことではないと学んだため、分からないことは積極的に聞くようにしています。

Q４.ワークライフバランスはどうですか？

・国会の開会中、閉会中で仕事量にメリハリがあるため、仕事に対するやりがいとモチベーションを保ちつつプライベートも大切にできる環境です。
・年休の取得が容易であるため、定期的に帰省しやすく、地方出身の方にもおすすめです。
・フレックスタイム制を活用して、業務後は夜間大学に通っています。
・退勤後も趣味の時間を十分に確保できるので、毎日のようにジムや皇居で10kmほど走ってから家に帰ります。